

祝 新潟大学名誉教授 島田久八郎先生 叙勲おめでとうございます

口腔生命科学系列・助教授 山村 健介
(口腔生理学分野)



新潟大学名誉教授で歯学部口腔生理学教室教授であられた島田久八郎先生（79歳）は平成18年4月29日付け発令の「平成18年春の叙勲」において、教育研究の功績が認められて「瑞宝中綬章」を受章されました。

島田先生は昭和2年に新潟市にお生まれになり、昭和27年に新潟医科大学を卒業された後、新潟大学医学部助手、助教授を経て、昭和42年4月に新潟大学歯学部口腔生理学教室の教授に就任されました。教授就任と同時に歯学部の運営委員会委員、同年7月には新潟大学入学試験制度委員会委員を委嘱されるなど、草創期にあった歯学部や変革期にあった新潟大学の礎を築くことに大きく貢献されました。その後も新潟大学電子計算機運営委員会委員、新潟大学附属図書館委員会委員を歴任され、さらに昭和47年から6期8年余にわたり新潟大学評議員、平成元年からは2期4年にわたり歯学部長をつとめられ、平成5年に定年退官されるまで、長年にわたり歯学部および新潟大学の管理・運営に携わってこられました。

また、在職された39年間、先生は生理学教育を通して生命科学の基礎を身につけた教育者、研究

者、臨床家の養成に力を注がれるとともに、ご自身も呼吸運動のリズム発生機構やその修飾機構について電気生理学的手法を駆使した実験をおこなわれ、多くの成果をあげられました。また昭和40年代後半からは、教室に在籍した大学院生などの若手研究者とともに咀嚼運動調節機構における歯根膜をはじめとする様々な口腔感覚情報の役割を解析した一連の研究を展開されました。これらの研究は、同一の受容器から誘発される反射が運動ニューロンの活動状況に応じて変調されることを解明し、学会でも高く評価されました。

若手研究者に対する先生の指導は非常に真摯かつ熱意あるもので、朝、実験の相談のため教授室に入った大学院生が教授室を出てくるのが夜中ということも決して稀ではありませんでした。先生の研究に対する姿勢で特に思い出されることは実験データを非常に大切にされることで、教授室で先生と二人で記録したばかりの「未処理」のデータを長時間にらめっこ……という状況は先生の指導を受けた大学院生なら誰もが経験したことです。また論文執筆指導の際には「話すように書きなさい」「あなただけがわかっている(注：あなた



にしか理解できない文です)」などの名言からもわかるように研究データを理路整然と他人に伝えることの大切さを教えてくださったのが思い出されます。そんな中でデータを見る目や、論文を執筆する能力が自然と養われていったのだと思います。

さる7月29日には口腔生理学教室のスタッフや島田先生のもとで学位研究を行った先生方による

「島田先生の叙勲を祝う会」が開催され、久しぶりに先生のお元気な顔を拝見することができました。以前よりおだやかになった表情で「才能ある若い人たちと同じ時間をすごすことができたことを本当に感謝しております」との御礼の言葉をいただいたときには一同恐縮するばかりでした。島田先生、これからも健康に留意されて、ますますのご活躍をお祈りしております。

